

第 35 回大分県小学生ハンドボール春季選手権大会
(兼 第 25 回全国小学生ハンドボール大会大分県予選)
= 戦 況 =

全国小学生大会予選を兼ねた、大分県小学生春季選手権大会 決勝リーグは、1 次予選を通過した、男子 4 チームと女子 3 チームでおこなわれた。

男子は、トーナメント戦・女子は、リーグ戦にて熱戦の火ぶたがきられた。

今大会の見所は、昨年 5 年生チームで全国大会出場を果たしている下郡小が今年最終学年でどれだけの仕上がりになっているか？県勢ならず全国の注目でもある。また、この大会は「新人戦優勝チームが優勝する」と言われて来たが、女子に於いては昨年新人戦優勝の明野西を 2 位だった日岡が破り全国大会出場を果たしている。その日岡は、今年も新人戦 2 位で昨年同様に優勝候補の三佐に一矢報いる事が出来るか？楽しみな大会である。

●女子戦況

1 試合目、優勝候補の三佐 対 3 チーム混成の「めじろん」！

ゲームが始まると、三佐は小さなミスからリズムに乗れない。そのミスにつけ込んでめじろんが果敢にシュートを決め勢いに乗った。しかし、徐々に落ち着きを取り戻した三佐が確実に得点を重ね、20 - 16 で勝利した。

2 試合目は、日岡 対 めじろん！

めじろんは、ゲームが始まると三佐戦で善戦した勢いのままスタートダッシュを図り前半 4 点リードで終える。後半に入り日岡は、自分たちのハンドボールに徹したが、めじろんの勢いを止める事が出来ず前半の点差を縮められず 1 敗を期してしまう。

3 試合目は、三佐 対 日岡！

日岡は 1 敗している事から、三佐に勝利して 3 チーム 1 勝 1 敗の得失点差に持ち込み勝機を伺いたいところだが、めじろん戦で受けた 1 敗のダメージからチームの士気が下がっていた様に思え、最後まで自分たちのハンドボールを貫けなかった。三佐は、1 試合目の反省点を修正して持ち前の三佐ハンドボールで勝利した。

新人戦優勝の三佐が 7 年ぶりの全国大会出場権を獲得して優勝した。さらなる飛躍を期待し県勢の応援と共に、全国大会の舞台で頑張ってもらいたい。

また「めじろん」は、明野北・下郡・横瀬西の混成チームだが、よく練習しており三佐戦で善戦した勢いのまま準優勝に輝いた。3 チーム混成で練習する難しさなどを思えば、指導者・選手・保護者の一体感が導き出した準優勝の感があった。日岡は前述した様に全国大会出場を狙って仕上げてきた様だったが、攻め・守り共に精彩を欠き自分たちのハンドボールが出来ないまま 2 試合を戦った様に思えた。

●男子戦況

準決勝1 試合目、下郡 対 明野西

下郡は、開始早々3-3ディフェンスで明野西攻撃陣にプレッシャーをかけ続け、相手のミスに乗じて速攻を重ね、14点差で前半を折り返した。

明野西は、果敢にシュートチャンスを狙うが下郡の堅いディフェンスラインを壊せず苦し紛れのシュートになってしまい得点できなかった。

結局、31-3の一方的なゲーム展開で下郡が勝利した。

準決勝2 試合目、別保 対 明野北

別保は、男女の混成チームである。男子に混ざって女子が戦う大変さがあるが、チームのエースである岡のカットインが冴え、チームをけん引して行く姿は、小柄な体に大きな魂が感じられた。

明野北は、個々のセンスはあるがなかなかチームとしての歯車が上手く噛み合わない。

オフェンス・ディフェンス共に良い形を作る事が出来ずに28-10で敗退してしまう。

3位決定戦 明野西 対 明野北

力の拮抗した戦いが予想されたが、ゲームが始まると一転した戦いが繰り広げられた。明野西は、ボールを回し相手ディフェンスの乱れに乗じてカットインして得点を重ねていく。一方明野北は、ロングシュートを多用するがこれが単発となり、単調な攻めを繰り返してしまった結果、9-3の6点ビハインドで前半を終える。

後半、明野北はロングシュートから一転してカットインを狙う戦術に変更し12-11と善戦したが、前半の攻防が勝敗分ける結果となり、21-14で明野西が勝利し3位入賞となった。

決勝戦 下郡 対 別保

下郡のスピードに対して、別保がどれだけ走って守れるか？見所である！

試合開始早々、下郡が「守って速攻」をまさに実行、全員がよく走りパスをつなぎ得点を重ねていく。別保は、下郡を走らせないでセットオフェンスにして守りたいところだが、走りを止める事はできなかった。

スピードとテクニックに勝る下郡が、1次予選から全ての試合を圧勝して全国大会でリベンジする挑戦権を獲得した。

全国大会では、小さくても勝てる事を証明して頑張してほしい。